

にしっこ 西っ子のみなさんへ 36

7月30日

夏らしい昆虫というセミ・カブトムシ・クワガタムシ等が浮かびます。3年生の教室の前に飼われていますが、カブトムシは雄の角、クワガタムシも雄の大きなアゴが特徴で見目はもちろん異なりますが、生態にはあまり違いがないと思っていました。しかし、実は大きく違うことを最近になって知りました。

それは何かというと、「寿命」の違いです。クワガタムシは越冬し数年間生きますが、カブトムシはその年だけの寿命で、セミの一生とよく似ているということです。

クワガタムシは、長生きしたもののほど大きくなるため、大きいものは高値で取引されることを知りました。体長が12cm近くになるものもいるようで、数百万円という値がつくこともあるようで、ビックリ！です。

あらためてカブトムシについて述べると、カブトムシは、コウチュウ目・コガネムシ科・カブトムシ亜科でコガネムシの仲間です。そういわれてみると、カブトムシの雌はコガネムシを大きくした感じですね。

クワガタムシは、コウチュウ目・クワガタムシ科で、カブトムシとはグループが異なり、世界で約1500種類が知られています。

どちらも成虫は夜行性で、昼間は樹木の根元、腐植土や枯葉の下などで休み、夕方に起きだして餌場まで飛んでいきます。樹液や腐敗した果実の糖分を含むものを好んで食べます。

幼虫は腐植土（腐葉土）、朽木や枯葉が微生物等の働きで分解されたものを好んで食べます。



クワガタムシは自分の身を守るために、わざと木から落ちるという習性があります。歩いて逃げるより、落ちたほうが早く逃げられることを知っているからなのでしょう。この習性を利用して、クワガタムシを捕まえることができます。「蹴り採集」という方法ですが、木の幹を蹴ったり、叩いたりする古典的な方法です。木を叩くとクワガタムシは自分の天敵である鳥が木にとまると勘違いし、木から落ちるので、落ちてきたクワガタムシを捕まえるという実に簡単な採集方法です。是非試してみてください。

叩く木は、縦に深い溝が入った樹皮と、縦長でふちがギザギザした葉っぱが特徴なクヌギやコナラの木です。クヌギもコナラもドングリがなる木なので、根元にドングリが落ちていのかどうか確認するとよいと思います。

仕掛けを作って捕まえる方法もあります。バナナ、焼酎、砂糖をビニール袋などに入れて混ぜ合わせ、半日～1日、常温に置いたものを準備し、ストッキングなど目の細かいネット状のものに詰めます。これをクヌギやコナラの木の幹に紐でくくりつけます。夕方に罠を仕掛けおけば、夜または明け方には、仕掛けに集まっているムシたちを見つけることができます。興味のある人は挑戦してみてください。

